

(仮称)都幾川遊水地に関する説明会

令和8年1月18日

荒川上流河川事務所

1. 入間川流域緊急治水対策プロジェクトの進捗状況 P2
2. 入間川流域緊急治水対策プロジェクトの効果 P4
3. 遊水地計画・検討のこれまでの経緯 P5
4. (仮称)都幾川遊水地の施設計画 P6
5. 今後の工事の進め方【施工ステップ】 P7
6. 初期湛水地及び減勢池掘削の効果確認 P10
7. 今後の工事の進め方【家屋調査】 P12

1. 入間川流域緊急治水対策プロジェクトの進捗状況(R7.12末時点)

- 令和元年東日本台風と同規模の洪水に対して、再度災害を防ぐことを目標に、令和7年度までに河道掘削、堤防整備等を実施し、遊水地整備を進めていきます。
- 減災に向けた更なる取組として、関係機関等が連携し、円滑な水防・避難行動のための体制等の充実を図ります。

河道掘削・樹木伐採

河道掘削や樹木伐採により水を流れやすくすることで、洪水時の川の水位を下げます。

堤防整備

洪水で溢れたり、堤防が壊れたりしないよう、必要な高さや幅を確保します。

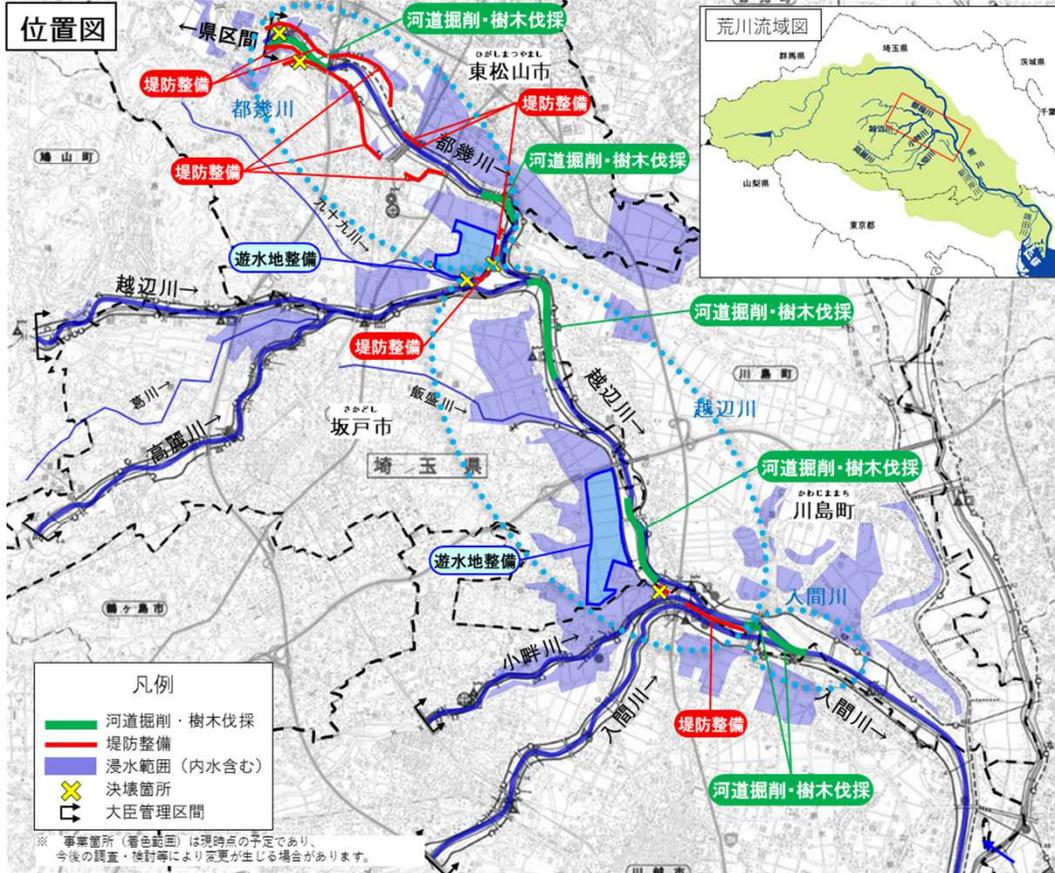
※河道内の掘削した土砂も活用して整備します

遊水地整備

流域の遊水機能の確保・向上の取組として、地形や現状の土地利用等を考慮した遊水地の整備を進めていきます。

(事例) 小貝川 母子島遊水地

※河道内の掘削土を活用して整備します



【整備手順の考え方と進捗状況】

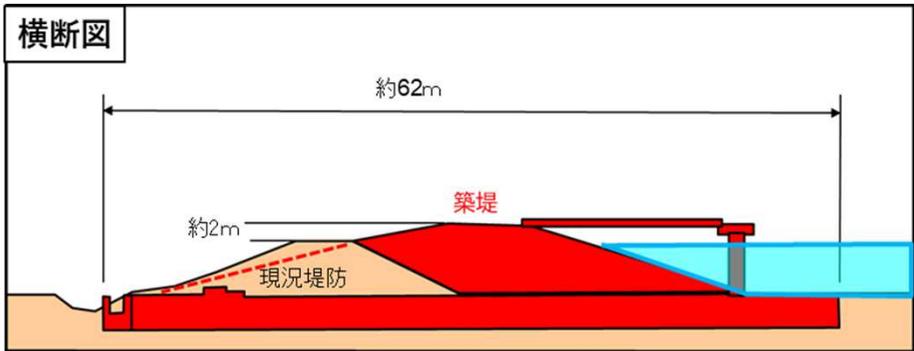
河道掘削は上下流バランスを踏まえ、下流入間川区間から実施し、全体的な水位低下を図ります。並行して都幾川区間では堤防整備を先行的に進め、安全に流せる洪水の量を増加させます。

区間	項目	進捗	年度							令和8年度以降
			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
入間川	河道掘削・樹木伐採 約67万m ³	100%		測量	施工					プロジェクト目標達成
	用地取得	100%		用地調査・用地取得(河道掘削)						
越辺川	河道掘削・樹木伐採 約60万m ³	92.8%		測量	施工					
	堤防整備 約13万m ³	100%		施工						
	遊水地整備		検討	測量			施工			
	用地取得	97.7%		用地調査・用地取得(河道掘削)	用地調査・用地取得(遊水地)					
都幾川	河道掘削・樹木伐採 約12万m ³	64.7%		測量	施工					
	堤防整備 約54万m ³	63.1%		測量	施工					
	遊水地整備		検討	測量			施工			
	用地取得	99.8%	55.7%	用地調査・用地取得(河道掘削・築堤)	用地調査・用地取得(遊水地)					

※数量・スケジュールは現時点での予定であり、今後の調査・検討等により変更が生じる場合があります。
 ※上記の対策の他、河川管理上必要な対策を行う場合があります。
 ※国管理区間のみの進捗状況を示しています。

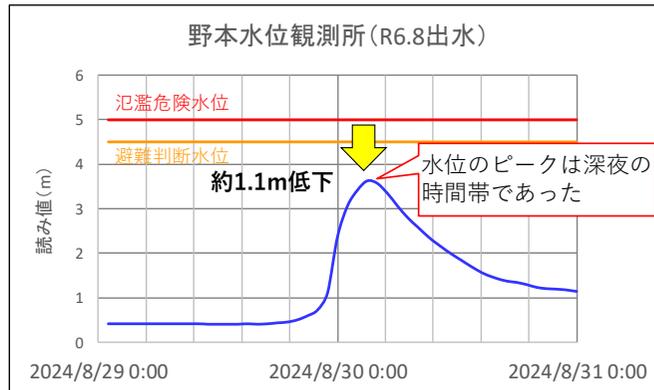
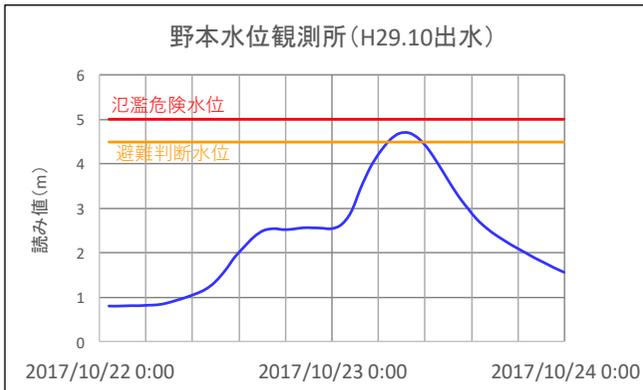
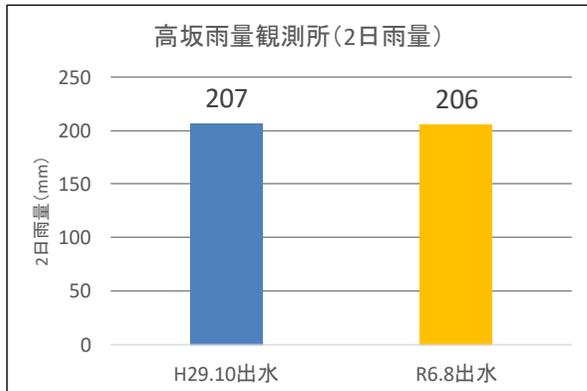


1. 入間川流域緊急治水対策プロジェクトの進捗状況(小剣樋管改築工事)



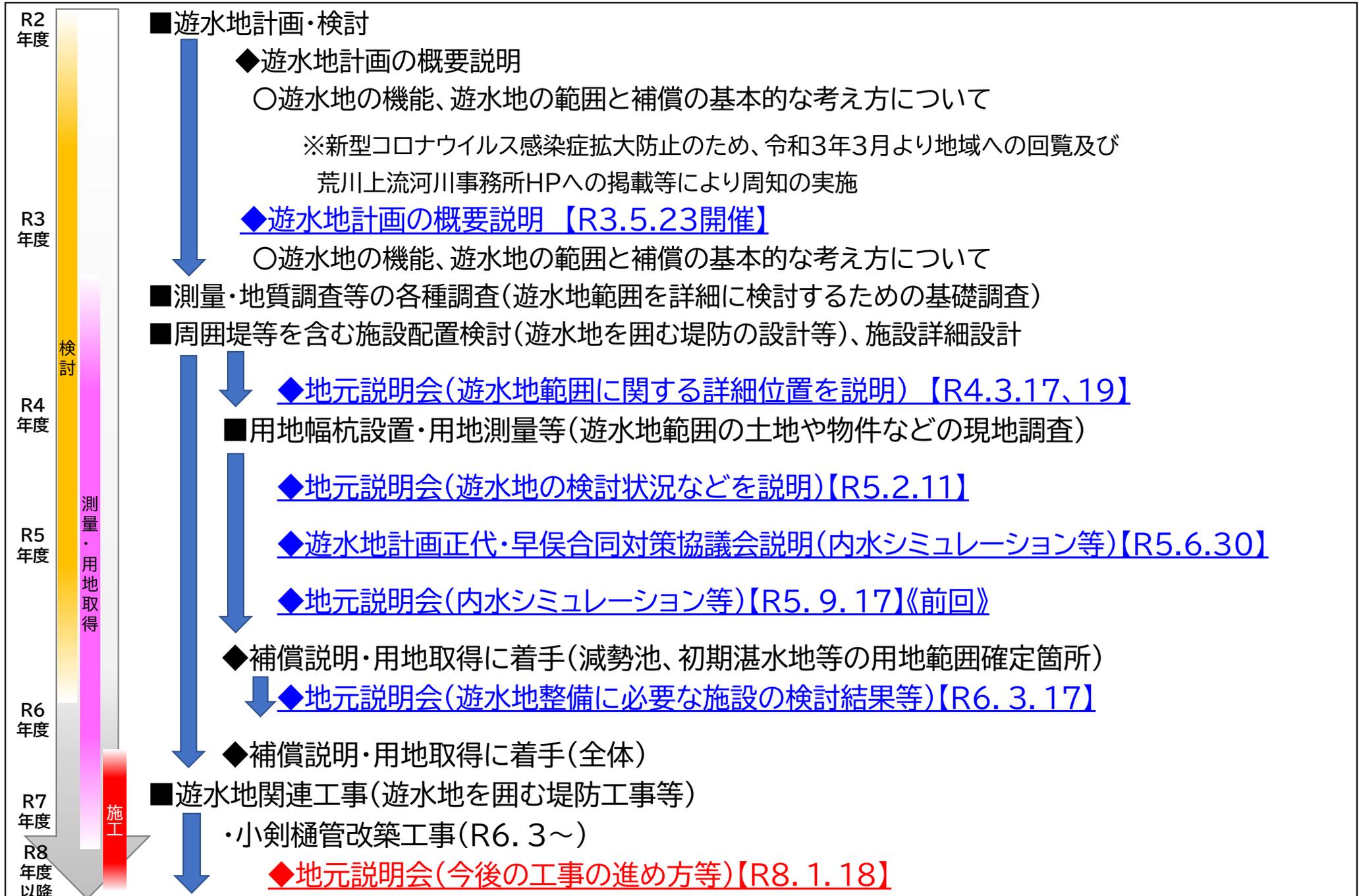
2. 入間川流域緊急治水対策プロジェクトの効果

- 入間川流域緊急治水対策プロジェクトにおいて、樹木伐採、河道掘削、堤防整備等を進めています。
- 令和6年8月台風第10号と同程度の雨量が降った平成29年10月洪水では、野本水位観測所(都幾川)で避難判断水位を超過しましたが、今次出水では避難判断水位に達することなく、深夜の時間帯での高齢者等避難の発令を回避することができました。



※氾濫危険水位、避難判断水位はR6年度時点

3. 遊水地計画・検討のこれまでの経緯



4. (仮称) 都幾川遊水地の施設計画

- 遊水地整備に必要な減勢池、初期湛水地、排水門、越流堤等を検討・設計しました。
- このあとの施工ステップでは、以下の観点でステップを検討しました。
 - 遊水地整備前より内水による影響が拡大しないよう、地内水路の改修や貯留施設(減勢池、初期湛水地)の掘削を進めながら、順次、周囲堤の盛土工事を実施します。
 - 水田等の耕作に影響がないよう、用排水路等の確保について関係する皆さまに確認しながら工事を進めます。
 - 現道(下図黄色丸箇所)の通行機能を確保しながら、工事を実施する予定です。



凡例
□ 周囲堤樋管

※遊水地の各施設の位置、構造等は現時点のものであり、今後の検討により変更となる場合があります。

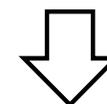
5. 今後の工事の進め方【施工ステップ1 整備初期】

- ステップ1では、現道の使用を最小限にするための工事用道路を整備したうえで、築堤盛土、東西水路、減勢池掘削、北側樋管、地盤改良工を施工します。
- 小剣樋管を改築することで水の流れる断面が約2.5倍大きくなること、及び東西水路を改修することで今までよりも水が流れやすくなり、排水機能が強化されます。
- 減勢池掘削により、内水を一時的に貯留できる施設ができることで、貯留効果の早期発現を図ります。

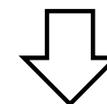


施工ステップ

小剣樋管(R7まで)



仮設工
(工事用道路等)



築堤盛土(道路・用排水路)

東西水路
減勢池掘削
北側樋管
地盤改良工

凡 例

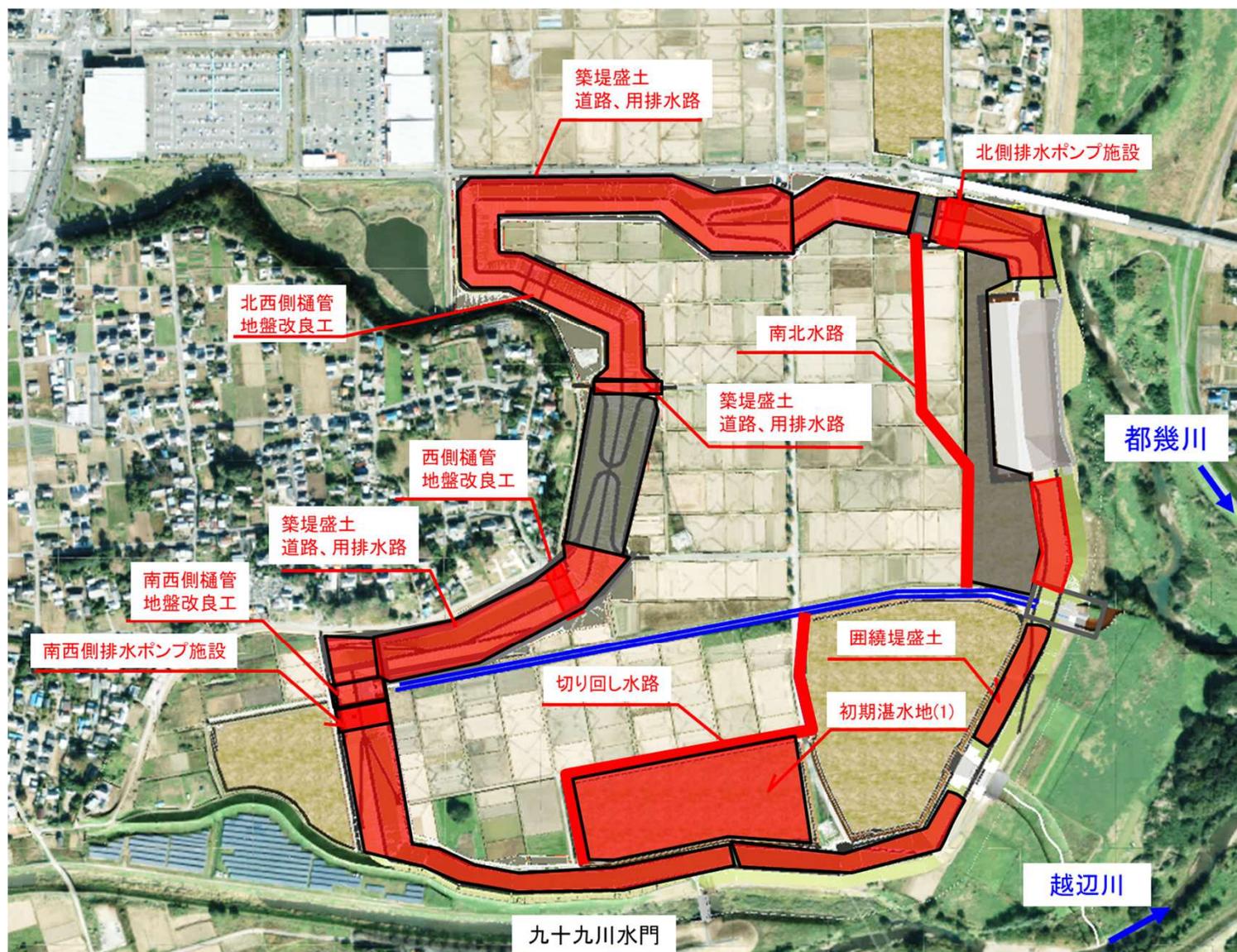
■ 施工箇所

■ 施工済み箇所

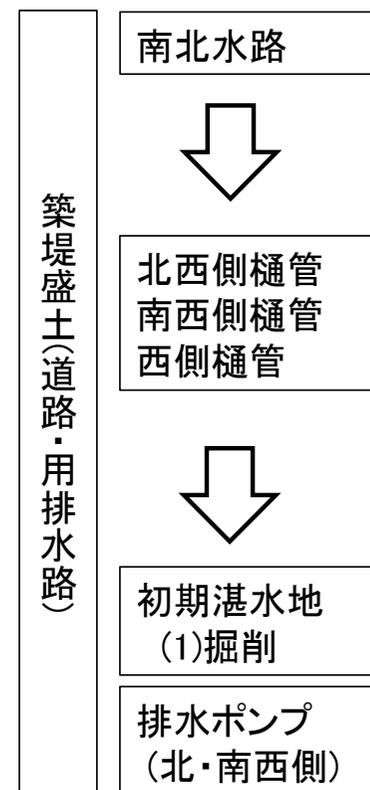
※施工ステップ(案)は現時点の想定であるため、今後の検討等により変更が生じる場合があります。

5. 今後の工事の進め方【施工ステップ2 盛土整備完了】

- ステップ2では、築堤盛土と並行して、南北水路、北西側・南西側・西側樋管、初期湛水地(1)、排水ポンプ等を施工します。
- 初期湛水地掘削により、貯留施設が増えることで、貯留効果が更に上がります。
- 南北水路を改修することで、排水機能が更に強化されます。



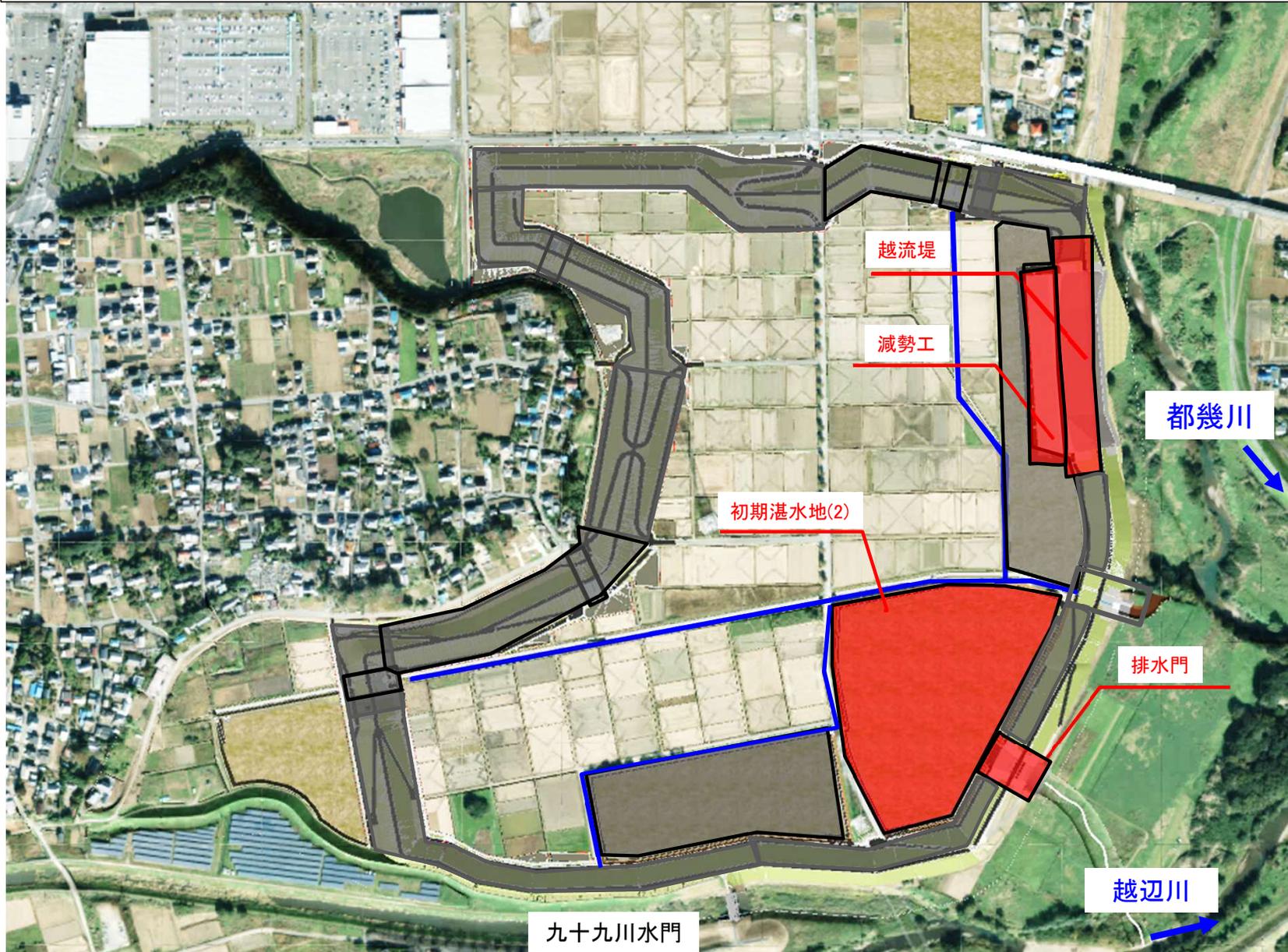
施工ステップ



※施工ステップ(案)は現時点の想定であるため、今後の検討等により変更が生じる場合があります。

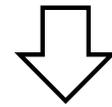
5. 今後の工事の進め方【施工ステップ3 排水・流入施設完了】

- ステップ3では、遊水地完成に向けて、排水門、初期湛水地(2)、越流堤等を施工します。
- 遊水地内の施設整備の最後に、大きな洪水時に都幾川から遊水地へ流入させる越流堤を整備し、遊水地完成となります。

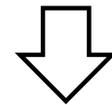


施工ステップ

排水門



初期湛水地
(2)掘削



減勢工
越流堤

凡 例

■ 施工箇所

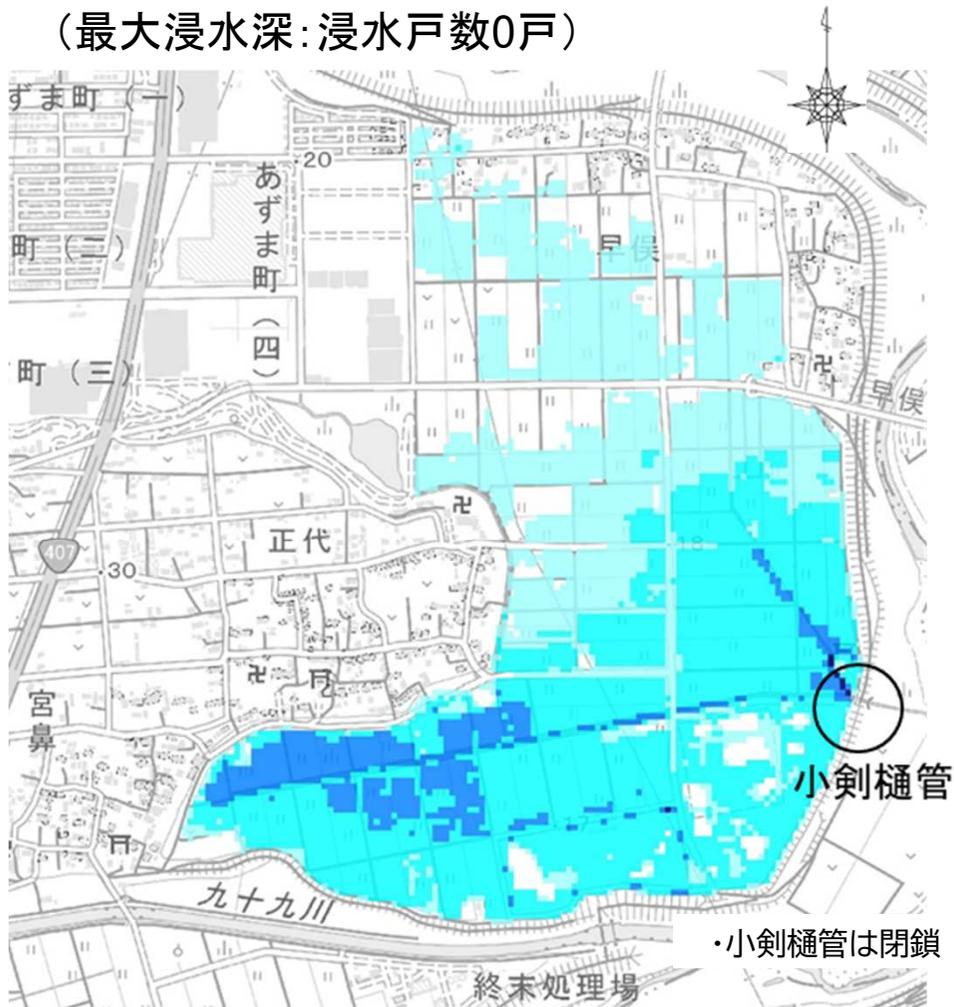
■ 施工済み箇所

※施工ステップ(案)は現時点の想定であるため、今後の検討等により変更が生じる場合があります。

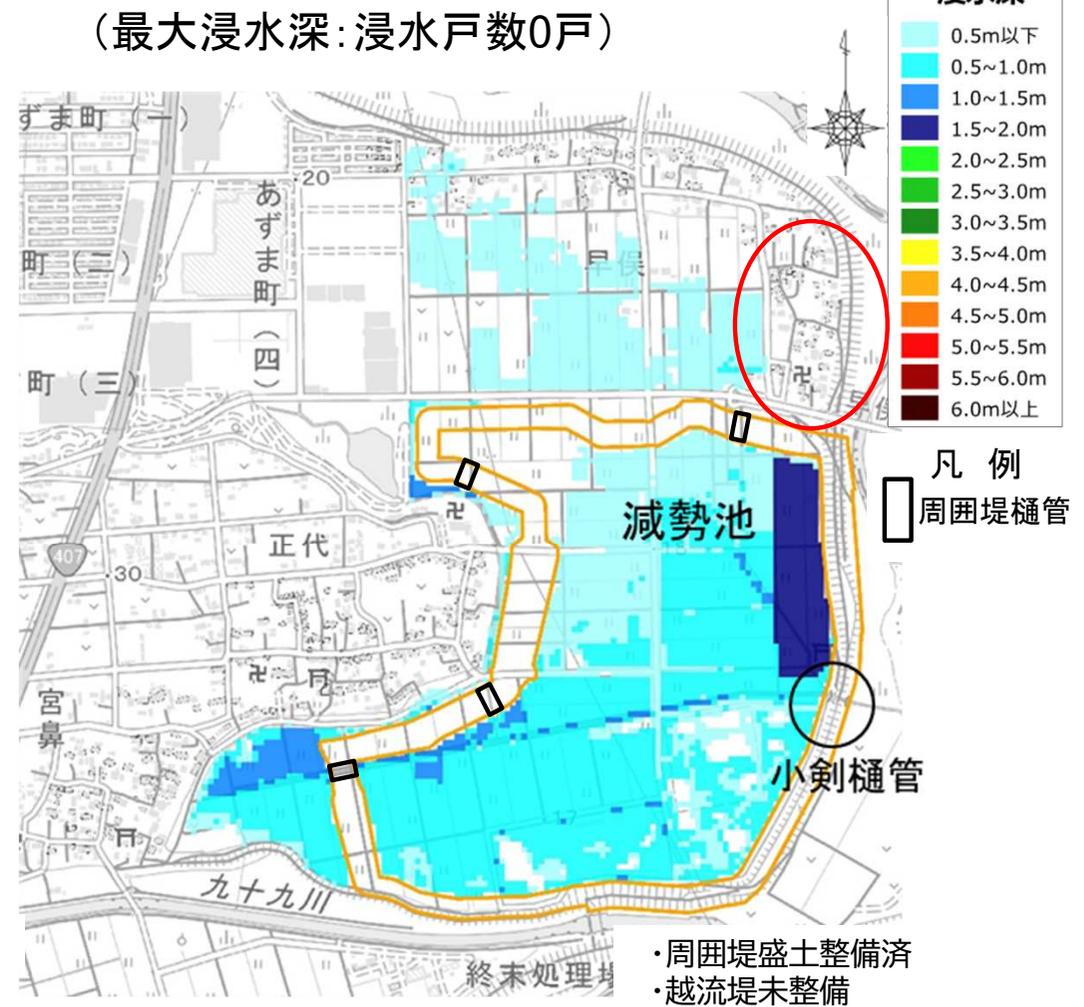
6. 初期湛水地及び減勢池掘削の効果確認

- 農地だった箇所周囲堤の盛土を行うと、遊水地整備前と比較して内水が湛水していた面積が減ります。
- 周囲堤盛土後の湛水面積が減った条件での内水シミュレーションにより、遊水地外の内水による影響を確認しました。
- 減勢池の掘削を行うことにより、周囲堤盛土後の北側住宅地(図右下赤丸範囲)の浸水深や浸水範囲の拡大がないことを確認しています。

遊水地整備前
(最大浸水深: 浸水戸数0戸)



遊水地整備中: 減勢池掘削後
(最大浸水深: 浸水戸数0戸)



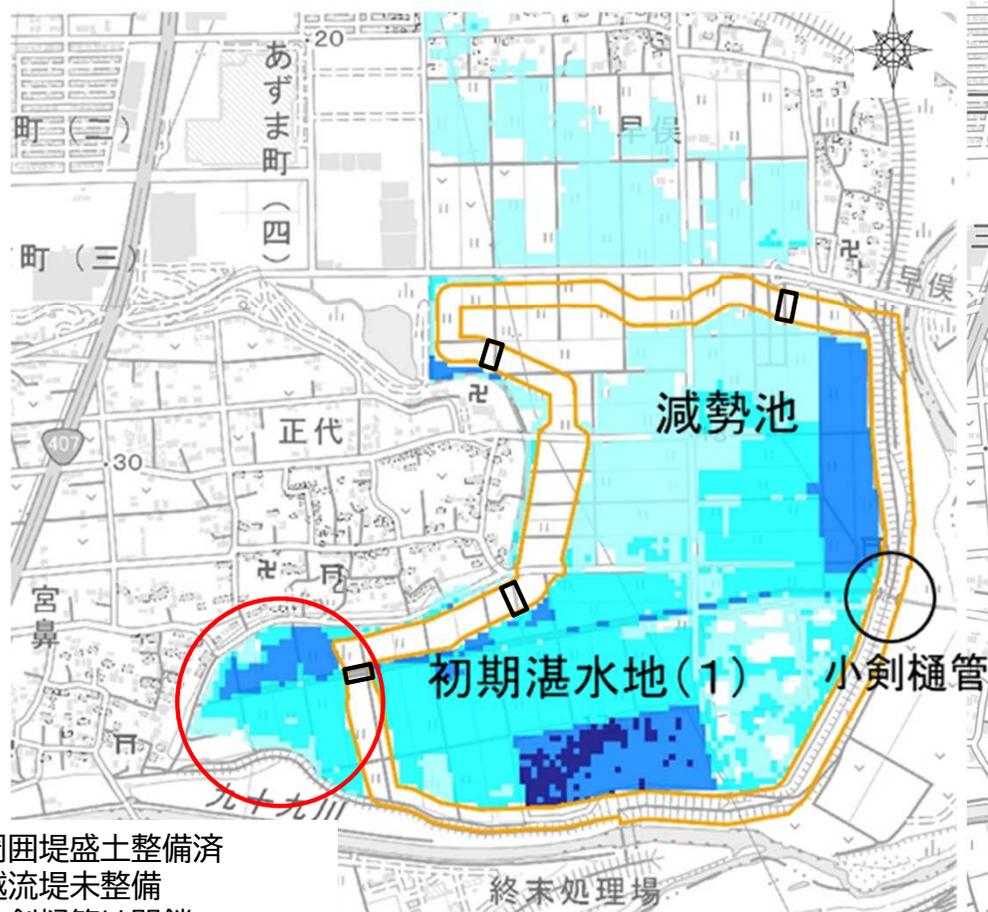
条件: R6.3月時点の設計成果を反映したシミュレーション。令和元年東日本台風の実績降雨。総雨量約320mm

- ・周囲堤盛土整備済
- ・越流堤未整備
- ・小剣樋管は閉鎖
- ・周囲堤樋管は閉鎖しない

6. 初期湛水地及び減勢池掘削の効果確認

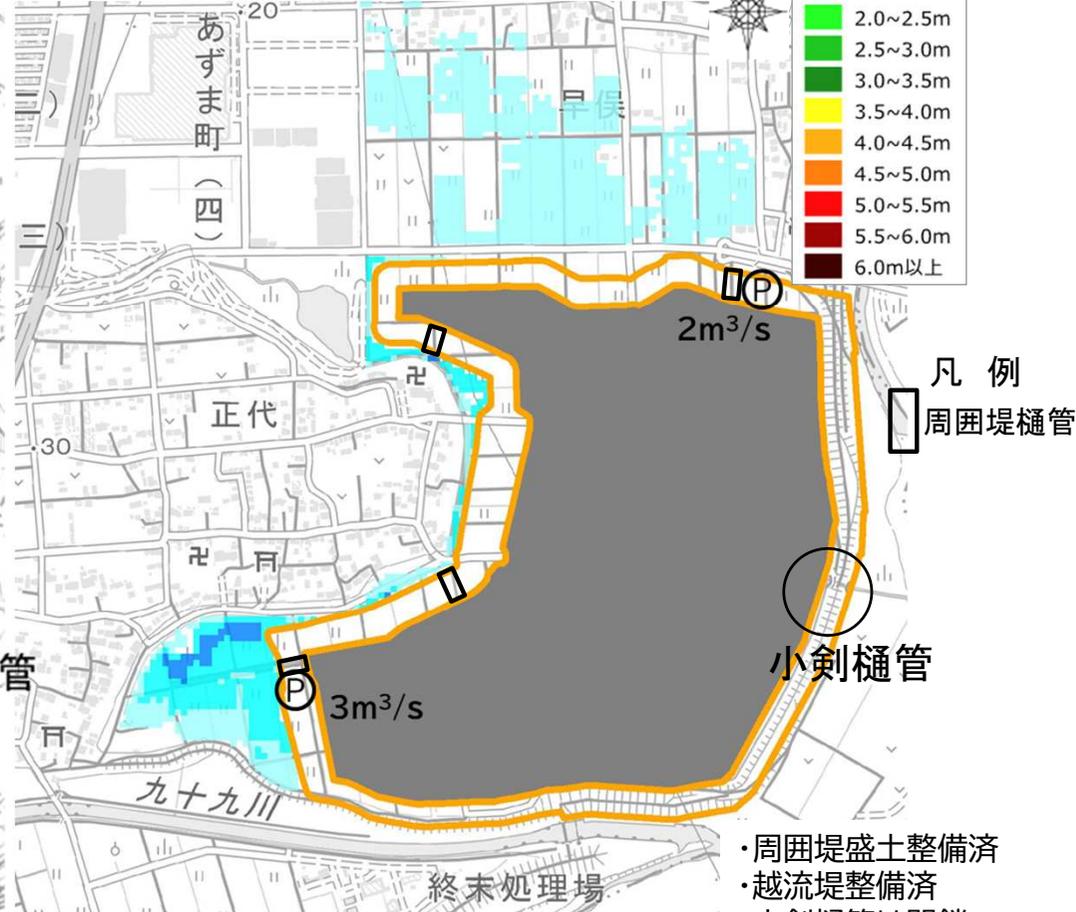
- 初期湛水地(1)の掘削を行うことにより、南西部分(図左下赤丸範囲)の浸水深が抑えられることを確認しています。
- 減勢池、初期湛水地を掘削することで、周囲堤盛土後の内水による影響を抑えられることが確認できました。

遊水地整備中: 減勢池、初期湛水地(1)掘削後
(最大浸水深: 浸水戸数0戸)



- ・周囲堤盛土整備済
- ・越流堤未整備
- ・小剣樋管は閉鎖
- ・周囲堤樋管は閉鎖しない

遊水地整備後
(最大浸水深: 浸水戸数0戸)



- ・周囲堤盛土整備済
- ・越流堤整備済
- ・小剣樋管は閉鎖
- ・周囲堤樋管は閉鎖

条件: R6.3月時点の設計成果を反映したシミュレーション。令和元年東日本台風の実績降雨。総雨量約320mm

- 工事による建物等への影響を確認するため、工事着手前に家屋調査(事前)を行います。
- 工事完成後に、家屋調査(事後)を行い、工事による建物等への影響を確認します。

工事
着手前

家屋調査(事前)

工事影響範囲の家屋等について、工事着手前の調査を行います



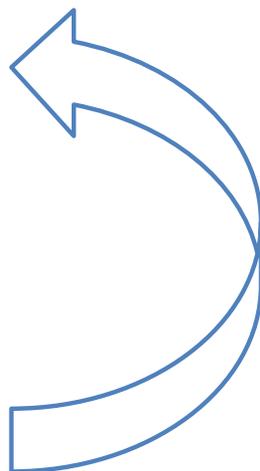
工事中

築堤盛土
地盤改良
樋管新設



工事
完成

家屋調査(事後)



※堤防盛土工事のように、工区毎、段階的に複数工事を実施する場合、完成までに複数回の家屋調査を行う場合があります。

○家屋調査とは

堤防盛土工事等により、周辺地盤に沈下や隆起が起きる場合があります。工事による変動が生じないよう、十分注意しながら施工しますが、万一、周辺地盤に変動があった場合の建物等への影響を確認するため、家屋調査を実施します。

家屋調査は、家屋、塀、物置等の構造物を対象とし、所有者の立会いのもと実施します。

○家屋調査(イメージ)



家屋調査(事前)では、工事前の家屋の状態を確認・記録します。



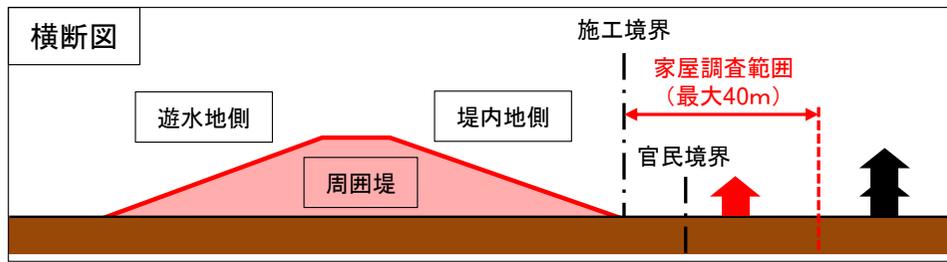
家屋調査(事後)では、工事後の家屋の状態を確認・記録し、事前調査からの変化があるか確認します。

7. 今後の工事の進め方【家屋調査】

○家屋調査の範囲は、工事の種類や周辺の地盤条件から、最大40mの範囲に掛かる敷地内の建物等を予定しています。

家屋調査の範囲は、最大40mの範囲に掛かる敷地内の建物等を予定しています。

横断図



※家屋調査対象者には、工事着手前に個別にご連絡させていただきます。

凡例

■ 家屋調査範囲 (予定)

